

うしずデイキャンプ2025 活動報告



広島市青少年野外活動センター・こども村

2025/9/14作成

実施概要

【目的】

自然体験活動と異年齢交流を通じて、青少年の協調性や自立性を育むことを目的とする事業です。

【対象・定員・応募者数】

小学生・36人・応募者 112人

【参加者・ボランティアスタッフ】

小学生 34人・ボランティアスタッフ 9人

【告知の方法】

- ・青少年野外活動センター・こども村 WEB サイトへチラシの掲載
- ・青少年野外活動センター・こども村 FACEBOOK へのチラシの掲載
- ・広島市広報誌「市民と市政」へ情報の掲載(令和7年8月15日号)
- ・登録ボランティアスタッフへのメール配信
- ・ボランティアミーティングでの事業紹介

【開催までの流れ】

2025/8/30 事前研修
2025/9/13 実施日

【当日のスケジュール】

9月13日(土)	
9:15	スタッフミーティング
9:30	受付開始
10:00	はじめのつどい アイスブレイク
10:20	火おこし体験
11:00	ねじりパン焼き体験
12:30	昼食
13:30	焼杉体験
15:00	おわりのつどい
15:20	スタッフミーティング

【ボランティア募集案内】



ボランティアスタッフ 募集中!!

うしずデイキャンプ

どんなことをするの？

野外活動センターでの体験活動

- ◆事前研修 ◆ 予定
8月30日(土) 9:30～15:30 予定
プログラムを体験し、当日の役割を確認します。
- ◆当日 ◆ 予定
9月13日(土)
9:00 スタッフミーティング(事前研修)
午前の活動 はじめのつどい
火おこし体験・ねじりパン焼き体験
焼杉体験
午後の活動 スタッフミーティング(事後研修)

野外活動センターって
どんなところ？

青少年の自然の中で活動を支える施設です。
自然・人・地域とのつながりを通して、青少年子どもたちの「社会性」や「人を思いやる心」を育みます。

対象 広島県内の大学・大学院に在籍の学生
広島県出身の大学生・大学院生

募集期間 令和7年4月21日～令和7年8月13日

申込方法 各自二次元コードから申し込むことができます

公益財団法人広島市文化財団
広島市青少年野外活動センター・こども村
〒731-1171 広島県広島市安芸区北区小町内5135 TEL.082-835-1444
http://www.cf.city Hiroshima.jp/vega-act

【参加者募集案内】



参加者募集中!!

WILDに1日を過ごそう!

うしずデイキャンプ

参加費 300円

どんなことをするの？

野外活動センターでの体験活動

- 9月13日(土) 予定
9:30 受付
10:00 はじめのつどい
10:20 火おこし体験
11:20 ねじりパン焼き体験
12:30 昼食
13:30 焼杉体験
15:00 おわりのつどい

野外活動センターって
どんなところ？

青少年の自然の中で活動を支える施設です。
自然・人・地域とのつながりを通して、青少年子どもたちの「社会性」や「人を思いやる心」を育みます。

対象・定員 小学生・36人
募集期間 令和7年6月3日～令和7年8月27日

募集期間 令和7年6月3日～令和7年8月27日

申込方法 各自二次元コードから申し込むことができます

公益財団法人広島市文化財団
広島市青少年野外活動センター・こども村
〒731-1171 広島県広島市安芸区北区小町内5135 TEL.082-835-1444
http://www.cf.city Hiroshima.jp/vega-act

ボランティアスタッフ事前研修について

■事前研修

青少年野外活動センターに集まり、職員と一緒にプログラムの事前体験をしました。ボランティアスタッフ同士の交流を図るとともに、こどもたちの活動支援の方法について確認しました。



プログラムについて

■はじめのつどい 担当 進行・アイスブレイク①：シュガー アイスブレイク②：タッチー

(内容)

「はじめのつどい」では、職員・ボランティアスタッフの紹介をしました。次に、初めて出会った子どもたちが楽しく活動に取り組めるよう、人間関係作りを促すアイスブレイクをしました。アイスブレイクを通じて、子どもたちとボランティアスタッフの関わりができました。



■火おこし体験 担当：みっひー

(内容)

班ごとに、まい切り式火おこし器を使って火おこしをしました。活動時には、グループ内で順番を決めたり、高学年の児童が低学年の児童にやり方を教えてあげたりする姿が見られました。「火を起こす」という目標に向けて活動をする中で、班の中での人間関係を築くことができました。



■ねじりパン焼き体験 担当：シュガー

(内容)

パンの生地作りと生地を焼く体験をしました。ビニール手袋の付け方、水や油の計量方法、力強くパンをこねる方法、長細く生地を伸ばす方法、アルミホイルのちぎり方など、こどもたちの生活経験が活かされる内容です。友達がうまくできないときは、班の仲間が優しく教えてあげている姿が見られました。焼きあがったパンは、ブルーベリージャムをつけて食べました。



■焼杉体験 担当：タッチー

(内容)

杉板を焼いてオリジナルプレートを作りました。プレートのもととなる木は、自分で選びます。杉板の焼き加減は失敗しながら学びます。きれいに磨く方法は、磨きながら見つけていきます。「自分がやけどをしない、人にやけどをさせない方法」を、みんなで考えてから活動を始めました。



異年齢学習を促すための工夫について

■異年齢学習について

こどもたちの社会性や協調性を育むために効果的であると異年齢学習が取り入れられることが増えてきました。今回の「うしずデイキャンプ」も小学1年生から6年生までの異年齢学習となっています。

ただ異年齢の参加者が集まれば社会性や協調性が育めるかと言えば、そうでもなさそうです。異年齢学習を促すためには、指導者の工夫や働きかけがなければならないと考えています。

■異年齢学習を促すための取り組み

① 大学生ボランティアの働きかけ

青少年野外活動センターでは、大学生ボランティアスタッフがこどもたちと一緒に活動に参加します。ボランティアスタッフは、こどもたちの気持ちを受けとめ、意思決定や話し合いのサポートを行います。高学年の児童を中心に活動が進めていけるように促したり、低学年の児童の意見を引き出したりしています。こどもたちと一緒に全力で遊んだり、誰かを孤立させないように動いてくれたり、異年齢学習には無くてはならない存在となっています。

② グループリーダーの育成

昼食後の休憩時間にキャンプ場の広場で遊びました。何をするかはこどもたちが決めます。何人かの高学年の子たちが中心となって「何をして遊ぶか」を、みんなに問いかけながら決めていました。遊び始めは、なかなかうまくいきません。スタッフやボランティアが高学年の子に「範囲はどこまで?」、「小さい子が分かるゲームない?」などと、ささやきながら、ゲーム内容を変更・修正し、みんなで楽しめる時間を作りました。グループのために力を貸してくれようとしている人を見つけ、その人を支えることができれば、次の学習へと繋がる異年齢グループを作ることができそうです。

